

平成 19 年度 第 2 回海洋開発委員会 幹事会 議事録 (案)

日 時：2007 年 8 月 22 日 (水) 14:30～18:00

場 所：土木学会 役員会議室

出席者：高橋委員長、関本幹事長、大塚、木村、五明、柵瀬、東江、古川、水谷、矢内の各委員兼幹事、
伊藤、加藤、鈴木、田島、森屋の各幹事

議事内容

1. 委員長挨拶

シンポジウムだけでなく、この分野の発展に繋がるアクティビティを高める必要がある。その方向で議論を進めていきたい。

2. 論文集のチェックリスト

学会から照会があった論文集のチェックリストについて、配付資料の内容を確認した。

3. 前回議事録の確認

- ・地球環境委員会に派遣している柵瀬委員の任期が残っているので、委員の交代はしないこととした。
- ・前回議事録に関して何かあれば、関本幹事長に連絡する。

4. 幹事交代

- ・織田幹事から伊藤幹事に交代する。
- ・新たに港空研の鈴木さんに幹事に就任していただく。

5. 第 3 2 回シンポジウム報告 (関本幹事長)

- ・シンポジウム、懇親会、見学会は過去最多の参加者数となった。
- ・宿泊数は延べ 700 泊程度で、50 万円の助成を受ける予定。
- ・広告掲載会社が減ってきている。
- ・参加者数に対し論文集の販売数が落ちている。CD にコピー防止措置を施すことが考えられる。
- ・土木学会は、会員には 1 年後、非会員には 3 年後から論文を公開する方針
- ・著作権は土木学会に委任することを投稿要領に明記している。
- ・紙ベースの論文集を残すかどうか？重たすぎる、事前購入が面倒などの声がある。投稿者に論文集を必ず送りつける方法もある。論文WGで検討し、次回の幹事会で議論する。
- ・森屋幹事からアセットマネジメントの特別セッションについて報告された。聴講者が多かったが、座長との連絡が不十分だったためパネルディスカッションが思うようにいかない部分があった。

6. 第 3 3 回シンポジウム準備状況 (矢内委員、五明委員)

- ・会場となる倉敷市芸文館を下見したところ、美観地区に隣接する好立地であることが判明した。
- ・懇親会会場は、シンポ会場から徒歩 5 分の倉敷アイビースクエアで、レトロな感じのところ。

- ・会場設営は利用者が行う必要がある。また、ゴミは、館内自販機を除いて、利用者が持ち帰ることになっている。
- ・会場使用料以外に機器使用等に 50 万円程度が必要。
- ・倉敷市の助成は、参加者 500 人で 20 万円（倉敷市宿泊者が半数以上であることが条件）
- ・倉敷市の魅力をアピールする必要がある。
- ・スケジュールは、今年と同じ受付開始日で、9 日早いシンポジウムに間に合わせるもの。うまくいけば、次年度以降もこのスケジュールで行う。
- ・再来年の開催地については、松山、沖縄、横浜を候補とし、それぞれ矢内委員、東江委員、伊藤委員が PR ポイントを整理し、次回の幹事会で決定する。

7. 改革小委員会から（木村委員）

（来年のシンポジウム）

- ・倉敷をテーマにした特別セッションまたはオープニングセッションを検討している。
- ・倉敷市は産業観光に力を入れている。
- ・瀬戸内海の流動については上嶋先生が研究をしていた。
- ・キーパーソンは前野先生や地方整備局に問い合わせる手がある。

（特別セッション）

- ・大水深海域の特別セッションには 100 名程度の参加があり、その 2 も期待できることから、その継続が了承された。
- ・海底掘削は専門会社が担っており、土木の範疇とは言い難い。
- ・洋上風力は今年のシンポで 1 セッションできた。
- ・サハリン 2 の話は論文になっていないようだ。
- ・水谷委員と大塚委員に関連情報を調べていただく。

（座長企画型セッション）

- ・大塚委員と五明委員から既に案をいただいている。論文は一般論文と同じレベルで査読する。
- ・セッションの応募の際には、セッションを構成する論文を提示する必要があるが、これから発展する分野については応募の段階で論文名を確定するのは難しいとの指摘があった。他学会の中には、座長だけ決定し、その中身を座長に委ねる自由度がある。論文集に載せない発表があってもよい。
- ・投稿数が少ない分野についてセッションを設けることにより、その分野の発表を促す効果がある。

（賞）

- ・海洋開発論文集に論文として発表された技術を公募し、幹事会で審査・承認し、委員会で表彰する。
- ・国際に限定すると報われない人もいるのではないか。
- ・国際活動が委員会の評価対象になっている。国際というキーワードが委員会活動に必要。
- ・海外の大型プロジェクトの情報を委員会に持ってきてほしい。
- ・人を呼ぶための旅費の確保に努める。
- ・外国の海洋関係学会と連携することも考えられる。
- ・HP の英語版も必要。

（その他）

- ・地方整備局からの投稿については、本省から働きかけを促す。

8. 研究小委員会の状況（鈴木幹事、古川委員、森屋幹事）

（外海水導入小委員会）

- ・今年度5回程度の開催予定で、既に2回開いた。
- ・山本顧問の助言を参考に、100年後も見据えたフューチャビリティスタディを行う。
- ・12月までにはある程度のとりまとめを行う。

（順応的管理研究小委員会）

- ・委員はこれから人選するが、既に作業は進めている（アジア土木技術国際会議での発表など）。
- ・12月7日に「海の森づくりフォーラム」の中で、パネル展示とシンポジウムを開催する。

（アセットマネジメント小委員会）

- ・2年間の予定だが、もう少しのばした方がいいという意見がある。
- ・海岸省庁で作成している維持管理マニュアル（案）を発展させる方向で、各委員に資料を配付している。
- ・委員の追加については保留している。
- ・小委員会の新設は理事会承認事項なので、小委員会の内容を示した文書を作成して岩西さんに送る。
- ・当面の活動予算はないが、シンポジウム会計などからの旅費支出も考えられる。

9. 土木学会論文集英文化（五明委員）

- ・鳥取大の黒岩先生から、海洋開発委員会の英文論文集出版方針について照会があった。
- ・CEJにはOcean Engineeringが含まれると考え、海洋開発委員会独自の英文Journalにこだわらず、必要ならばCEJ編集小委員会をサポートする。いい論文があればCEJへの投稿を促すことも考える。

10. WEBシステム

- ・WEBシステムの受託会社（ジュノン）が中堅会社に発展的に吸収される。今までの契約は継続できるが、トラブル時の迅速な対応は期待できなくなる。
- ・討議については、委員会HPで対応することも考えられる。
- ・旧サーバ（cv-ocean）は切ったが、まだ残っているドメインを解約する。

11. 海洋工学シンポジウム

- ・順応的管理は古川委員に、閉鎖性海域の生態環境の評価・改善は大成の勝井さんにオーガナイザーをお願いする。津波防災のオーガナイザーについては、水谷委員を通じて海岸工学の津波小委員会と調整する。
- ・津波防災については、建築学会から協力するとの回答があった。
- ・9月3日に行われる実行委員会の調整により、テーマがなくなる可能性はある。

12. その他

- ・次回幹事会は9月28日午後2時から開催する予定。